

4. 緩和ケア・がん患者サロン・デイホスピス等の活動

E. 岩手医科大学附属病院「がん患者・家族サロン」

木村 祐輔^{*1,2} 堀口真由子^{*2} 伊藤 薫樹^{*2,3} 杉山 徹^{*2,4}

(^{*1} 岩手医科大学 緩和医療学科 ^{*2} 同 腫瘍センター ^{*3} 同 腫瘍内科学科 ^{*4} 同 産婦人科学講座)

はじめに

岩手医科大学附属病院（以下、当院）では、がん患者およびその家族に対する支援の充実を目的に、緩和ケアセンターの設立、緩和ケア認定看護師教育課程の開講と並び、腫瘍センター長直轄の事業として、「岩手医科大学附属病院がん患者・家族サロン」を2009年4月に開設した。

本稿では、当サロンの設置の経緯ならびに運営状況について概説する。

「がん患者・家族サロン」の開設

当院は病床数1,166床を有し、年間の入院患者数約15,000人のうち、がん診療を目的とした入院患者数が約4,200人の特定機能病院である。

2008年2月に都道府県がん診療連携拠点病院（拠点病院）としての指定を受け、岩手県におけるがん医療の中心的役割を担ってきた。

がん対策基本法施行以前より、当院に対し、県内の各がん患者団体から「患者や家族が悩みや不安を自由に話し合い、さらに情報交換が可能なスペース」の院内設置に関する要望が多数寄せられていた。このため、拠点病院の指定を機に、がん患者団体との協働によるがん患者や家族のためのサロンの開設を計画した。設置にあたっては、各患者団体とのヒアリングを繰り返し行い、当サロンに盛り込む機能について検討を重ね、以下の4点をサロンの主たる機能とした。

- ①がん患者・家族同士の交流や情報交換。
- ②各医療専門職による相談機能（よろず相談）。
- ③患者団体やボランティア団体、あるいは個人が企画する各種イベントの開催。

④がんに関する情報へのアクセスを可能にするため、がん関連書籍や各種パンフレットの配置、およびインターネット環境の整備。

これらの活動主体は、患者会との協議により当院が担当することとし、具体的な役割としては、専用スペース（約30m²）の提供に加え、ボランティア研修の開催ならびにボランティアスタッフの登録、よろず相談や各種イベントの運営支援および日程調整、書籍・パンフレット等の管理、ホームページの更新や広報誌の発行、ならびに訪問者数の集計を担うこととした。これら広範な活動を有効に維持・機能させ、さらに訪問者の安全を確保するために、専従スタッフを配置し、病院診療日の10～16時を基本的な開設時間帯とする常設型のサロンとして運営を行っている。

1. 専従スタッフの配置

当院のがん病棟勤務経験を豊富に有する看護師のOG2名を専従スタッフとして雇用し、さらに腫瘍センターの事務担当者3名が専任スタッフとして、ボランティアの方々とともに訪問者に対

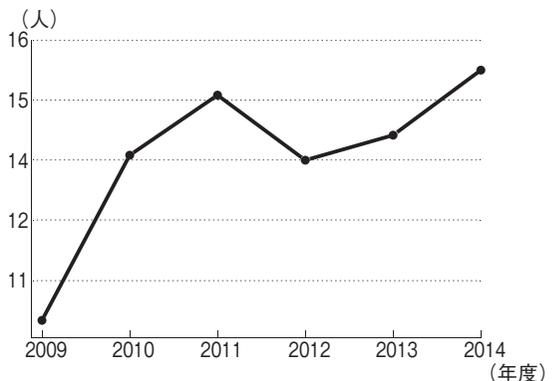


図1 1日あたり平均利用者数の年次推移

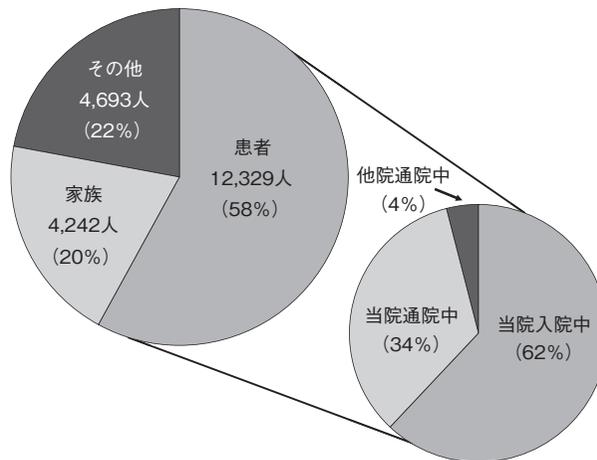


図2 利用者の内訳

する傾聴を行っている。さらによろず相談のスケジュール調整、ホームページの維持管理、広報誌の発行、来場者の背景や利用目的などの集計・解析を担当している。また、患者団体やボランティアスタッフとの連携によって、各種イベントの企画・運営を行っている。

2. ボランティア登録

当サロンでは、ボランティアスタッフは登録制としている。登録には、年1回開催する当院主催のボランティア研修会の受講を要請しており、専従スタッフとともにボランティアの役割や守秘義務の重要性などについて学んでいる。

3. よろず相談

各専門医療者に気軽に相談できる機会についての要望に応じ、各専門職（看護師、栄養士、薬剤師、医療相談員）が交替で訪問者の相談を受ける体制を整えている。

4. 各種イベント開催

事前に各団体あるいは個人から、イベントの企画書の提出を受け、安全性などの点をボランティアスタッフとともに確認した後に開催してきた。前述のよろず相談とともに、スケジュール表を作成しホームページ上に公開している¹⁾。「オストメイトの相談日」や、喉頭摘出された方が集

う「喉友の時間」、化学療法中の頭髪に関する相談を受ける「頭皮ケア・美容ケア相談会」、入院患者に加え、長期入院を支える家族も対象にした「フェイス＆マッサージによる癒しの時間」などが定期開催されている。さらに今年度（2015）からは、がん治療中の就労に関する相談日として「おしごとーク」の活動も開始した。また、「対話カフェ」として、腫瘍センターの構成メンバーが、交替でそれぞれの専門性に応じてミニレクチャーを行い、その後にお茶とお菓子をいただきながら、疾患のことや生活のことなど、医療者、患者・家族の立場を離れて談話する会の開催も開始し、これまでに17回にわたり継続して行っている。

運営実績

2009年4月8日の開設以来、2015年7月31日までに、延べ来訪者数は21,262名、1日平均13.7名である。1日あたりの来訪者数の推移は、震災後一時減少したものの、その後は再び増加に転じている（図1）。利用者の内訳では、患者自身が12,329人（58%）と最も多く（図2）、年齢別では60歳代の利用者が多かった（図3）。利用者の居住地区の内訳では、当院のある盛岡医療圏が約62%と最も多いが、その他、県内はもとより県外からの多くの方が訪問されている。訪問者の利用目的としては、気持ちや体のつらさに対する

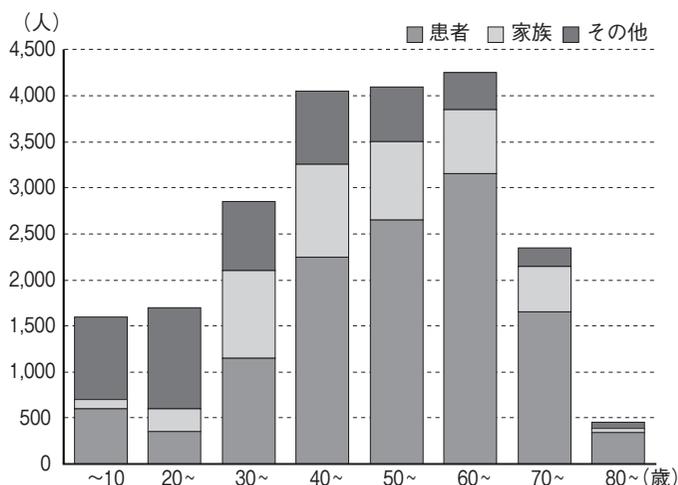


図3 利用者の年齢分布

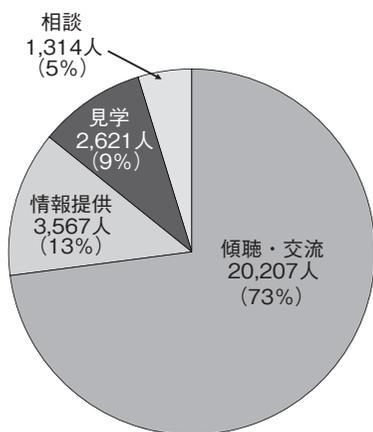


図4 訪問者の利用目的

傾聴や、語らいなどの交流を求めて来られる方が73%と最も多く、がんに関する情報へのアクセス目的が13%だった(図4)。

まとめ

がんと診断された時点から、治療経過中、さらには治療後に至る過程において、がん患者やその家族に対し、がん治療経験者が「Peer」(仲間)として、さまざまな苦悩、不安に寄り添い、支え合う活動「Peer support」の重要性が示されている。

2012年6月に策定された第2次がん対策推進基本計画においても、がん患者とがん治療経験者

との協働を進め、ピア・サポートの一層の充実を図ることが取り組むべき重要な施策の1つとして掲げられた²⁾。

当院では、県内のがん患者団体と協働して、がん患者・家族サロンを開設し運営にあたってきた。開設から約7年の経過において、患者・家族の希望、時代の変化に対応して、話し合いを重ねたうえでサロンの活動内容を柔軟に変化させてきている。当院の特徴である常勤の専従スタッフの配置は、当院の診療時間帯に、常に訪問者に対応できるサロンを維持するためには不可欠であると考えているが、この体制は同時に、ピアサポートの基本である患者・家族の主体性、自律性に影響する可能性を構造的に内包している。筆者らはこの点を十分に認識し、今後も当サロンが、患者・家族のためのより良い交流の場として多くの方に安心して利用していただけるよう、専従スタッフ、ボランティアスタッフ、利用される方々が、共に十分な対話を重ね、さらなる発展を目指すことが重要であると考えている。

文献

- 1) 岩手医科大学附属病院「がん患者家族サロン」ホームページ：<http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/gancenter/salon/index.html>
- 2) がん対策推進基本計画(平成24年6月)：http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/gan_keikaku02.pdf